

「情報科教育法Ⅰ」の授業評価報告書

数学教育講座／情報教育コース・河村泰之

1. 本授業の目的と概要

本授業は、総合人間形成課程情報教育コースの選択科目であるが、高校の情報の教員免許状取得に必要な科目で、教育職員免許法で定められた「各教科の指導法」に該当する科目である。ただし、2010年度以前に入学した者にとっては情報教育コースの必修科目となっており、卒業のために履修しなければならない。本年度の履修者は11名で、その内の5名が主に想定されている対象となる、2011年に情報教育コースに入学し教員免許取得を希望している者で、2名は他教科の免許を持つ大学院生で教科「情報」の免許取得を目指し、残りの4名は卒業に必要なため履修している。

シラバスに掲げた授業の目的は、教科「情報」に必須の基本的知識・技能の体系的な習得としており、到達目標は教科「情報」の「教育目的を述べることができる」、「内容・編成について述べることができる」、「教科指導法の要点を指摘することができる」である。関連するDPは、「情報教育に取り組むため、高い技能と豊かな表現力を身につけている。(技能・表現)」と「情報教育に関する自己の学習課題を明確にして、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。(関心・意欲)」である。

授業は模擬授業と討論を中心とし、教科の指導法を通して3つの到達目標について向かって取り組ませた。本年度、特に意識したことは到達目標の1番目に掲げた教科の教育目的を伝えるところである。学生は自分たちの経験した、機器操作やソフトウェア操作を中

心とした初期の情報教育の印象が強く、情報教育を操作指導と考えている傾向がある。そこで、ことある度に教科「情報」の目標について考える機会を多く持たせた。

2. アンケート結果

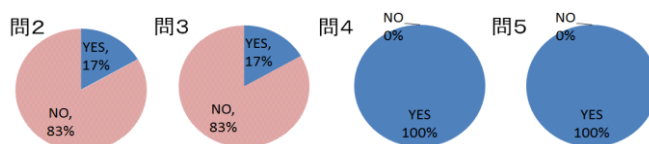
その達成状況を直接検証するために講義の最後に次のアンケートを行った。アンケートは無記名方式で、問1は記述式、問2～5はYES/NOの選択とした。

- | |
|--|
| 問1【教科「情報」の教育目標を述べてください。】 |
| 問2【教科「情報」の各科目の教育内容を述べるができますか。】 |
| 問3【教科「情報」の科目編成を述べるができますか。】 |
| 問4【他人の模擬授業を見て、教科「情報」の指導について、基礎的な教授技術の要点を指摘できるようになりましたか。】 |
| 問5【他人の模擬授業を見て、教科「情報」の指導について、配慮することを指摘できるようになりましたか。】 |

問1は次の2回答があり、他は無回答だった。

- ・情報についての知識・技能を習得する
- ・ここでいう「情報」についての意味やモラルを理解し、情報操作機器の利用のスキルを高める上で「情報」への理解を深め、身近な場面等に応用できるようにする。

問2と問3は YES が 17%、問4と問5は YES が 100%であった。



教科「情報」の教育目的はここでは割愛するが、問1に書かれた回答ではまったく不十分である。そして、無回答が多かった。ふだん模擬授業が改善されていく様子を見てみると目的は理解していると感じていただけに、この結果は非常に残念である。大きな原因は2つと考えられる。1つは無記名式のアンケートだったため、面倒な回答を避けたと思われる。期末試験の設問だったなら、もう少しきちんとした回答が期待できる。もう1つは記述式にしたことである。教育目標が学生に伝わっていたとしても、彼らにそれを自分の言葉で表現させたことはなかったため、文章で書くことができなかつただけだと思われる。

ただ、授業の目的は、教科基本技能の習得であり、目的の暗記や記述力の向上ではないため、この結果を見て気づかされた。続く問2、問3ではともにYESと答えたのが17%であった。これも印象よりは少ないが、問1が先にあったため、述べること自体に困難さを感じた結果であろうと推測される。

問1～3で達成状況は芳しくなかった結果になったことに対し、問4、5では受講生全員が「できるようになった」と感じていることがわかる。学生が達成感を持つこと自体は素晴らしい。しかし、ここで要点や配慮することを述べよ、と記述式にしていたら、問1～3のような結果になったかもしれない。

次にDPによる授業評価アンケートの結果を記載する。有効回答者は6名で、ほとんどすべての項目で十分貢献した・貢献したと評価されている。

DP	1A	1B	2A	2B	3A	3B	4A	4B	5A	5B
④	4	1	3	2	3	4	4	2	0	1
③	2	5	3	4	3	2	2	4	6	4
②										1
①										
無										

④:十分貢献した ③:貢献した ②:あまり貢献しなかった

①:DPとは無関係であった 無:未記入

3. 総括

(1) アンケート結果を踏まえた総括

まず、記述力に大きく依存するような設問は控えるべきだと痛感した。

教科の目標などは例えば模擬授業の指導案で書かせていたが、そのときは指導要領等を参考に書かせていた。他にも指導要領解説を読む機会は何度も作ったが、その内容を記述させるような指導は行っていない。授業では、読む・読みながら書く機会があったが、自分の記述力で書かせたことはなかった。授業で身についたことを確認するならば、授業と同じように指導要領等を見ながらアンケートに回答してもらうべきであった。

(2) 授業目的、到達目標、関連DPを踏まえた総括

授業目的に関しては、教科教育法は学生アンケートに左右されるべきではないと考えていたが、そのこと自体を学生に問いかけても良かったかもしれない。

到達目標に「述べる」を入れたのは大学のFDハンドブックを参考にしたためであるが、実際に指導したいことは、まず身につけていることであって、述べることはそれほど重要ではないと思いながら講義を進めていたということがわかった。次年度は授業目的に記載する事項をより検討しなければならない。

関連DPは、アンケート結果からすると概ね良好なので、さしあたって急な改善を要するものではないと判断する。

4. 次年度以降の改善点

教科の目標は初めにも説明したし、何度も少しずつ取り上げたが、指導要領解説では教科の目標だけでも2ページあり、不定期にとりあげるだけでは不十分だ（少なくとも記述できない）とわかったため、終盤で全体を再確認する時間を確保したい。